

2021 年度

国 語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 問題冊子および解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受 験 番 号	
------------------	--

* 解答に字数制限がある場合は、句読点なども字数として数えます。

【一】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 ①～⑥の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 組織にハンキをひるがえす。 ② 野球部にシヨゾクする。
③ 人口のトウケイをとる。
④ 規則をチュウジツに守る。 ⑤ 人工エイセイを打ち上げる。
⑥ 夕日で赤くソまる。

問二 次の熟語と同じ成り立ちのものを一つ選び、記号で答えなさい。

〔航海〕

- ア、登山 イ、高価 ウ、形成 エ、創造

問三 次の中から意味が似ていることはを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、感心 イ、活発 ウ、敬服 エ、親切 オ、従順

問四 次の□に同じ漢字を入れて、四字熟語を完成させなさい。

□理 □論

問五 次の()に共通して入る語を漢字一字で答えなさい。

- () が知らせる。
() の息。
() が好かない。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

圭太

(中略)

かっちゃんのいつていた「かわいい子」は、明里ちゃんだった。かっちゃんの足の手術が無事終わったあとは、ふたりで歩くりハビリにつき合った。つき合うといっても、少しはなれたところで見ていただけなのだ。

手すりを持ってひとりで立ったり、松葉づえを使って歩いたりするかっちゃん。両手だけで自分の体重をささえるのは

1 むずかしいらしく、何度も転んでいた。それでもふたりを心配させないように、かっちゃんは転ぶたびに冗談をいっていた。圭太はそれに笑いながらも心配でならなかった。ちょっと無理をしているように見えたからだ。

明里ちゃんも、どことなく元気がなかった。ふたりになったときに聞いてみたが、ごまかしてこたえてくれない。

「もしかして、ぼくが気にさわることした？」

明里ちゃんは大きく首をふった。

「じゃあ、何があったの？」

明里ちゃんはため息をひとつつき、口を開いた。

「わたし、勝也くんが苦手なの」

そして、初めてかっちゃんと会ったときのことを話してくれた。

たしかに、病院の食事を「毎日あんなの食べてるのか？」とばかにするようない方をしたり、「かわいいそうだなあ」といったのを、明里ちゃんがよく思うはずはなかった。

「かっちゃんは、明里ちゃんが長いこと入院しているの知らないんじゃないかな」

「知っていても知らなくても、そんなの関係ないわ」

「かっちゃんに悪気はぜんぜんなかったと思うよ。思ったことをすぐ口に出してしまうのがかっちゃんなんだ」

「ごはんがおいしくないってのはよく聞くけど、味が薄^{うす}いってだけでも。それにわたし、かわいそうじゃない」

そういつて明里ちゃんは、夕食の時間だと病室にもどっていった。

少しわかるような気がした。①「かわいそう」という言葉が、圭太もきらいなのだ。

小学校に上がりたてのところ、クラスになじめなかった圭太は、ひとりぼっちだった。人見知りが激しく、A下手だったので、友だちができなかったのだ。それに、運動もとくいじゃなかったので、体育の授業ではチームのBを引っぱってばかりだった。

そんな圭太のクラスで、秋の遠足の班を決めることになった。今回は好きな人どうしが集まっていいて、先生がいった。春は先生が決めた班だったのに。

みんな大よろこび。圭太はあせった。だれもさそってくれないと、自分でもわかっていたからだ。②

「それじゃあ、遠足では同じ班の人たちとおべんとうを食べてくださいね」

もうクラスメイトたちは班別に分かれたようだ。授業が終わるチャイムがなった。しんじられないことに、先生は圭太のことに気づかなかった。つまり、圭太もほかの子と同じようにどこかの班に入っていると、思いこんでしまったのだ。

どこからか、こんな声が聞こえてきた。

「かわいそう」

先生は気づいてくれなかったのに、圭太がひとりぼっちだと知っている人がクラスにいたのだ。

できればこのだれでもいいから、よんでほしいと思った。くやしい気持ちとはずかしい気持ちが体からあふれ出し、泣きそうになった圭太はトイレに逃^にげこんだ。

「かわいそう」なんて、いわれたくなかった。言葉では「かわいそう」なんていつても、だれも助けてくれなかったのだ。それから数日後、とうとう遠足の日がやってきた。

お母さんがはりきっておべんとうを作ってくれたが、ワクワクなんてしなかった。大好きなおやつも買ってもらったが、うれしくなかった。

「休もうかな」

朝ごはんを食べながら、ぼつりといってみたが、お母さんには聞こえなかったようだ。

「楽しんでおいで」

と、色あざやかなおべんとうをつんでくれた。

学校へ行くと、まず駅まで歩くために班ごとにならない。圭太はこの列にもならぶことができないので、どうしようかと中庭をうろうろしていた。また、

「見て、かわいいそう」

と、だれかがいった。そうか、自分はやっぱりかわいいそうなんだ。けれど、かわいいそうなのにだれもよんでくれなかった。けれど、そこでまた声がした。圭太の名前をよんでいる。

「高山^{なかま}、高山ってば」

ふりむくと、同じクラスの田中くんだった。クラスで一番の人気者、田中勝也くんだ。よくいたずらをして先生におこられているが、おもしろいので教室ではいつもみんなの中心にいる子だ。

「おまえ、どこの班にも入っていないんだろ。こっち来いよ」

いわれるまま、圭太はついていった。

「なんで早くいわないんだよ。ちゃんといってくれなきゃ、わかんないよ」

うつむいたままの圭太に、田中くんはおこってくれた。^③なみだが出そうになったが、今度はトイレには行かなかった。それからふたりは、「かっちゃん」、「圭太」とよび合うまでになり、おたがいにとつて一番の友だちになった。

それに、かっちゃんのきびしい特訓のおかげで運動が苦手でなくなり、思うこともだんだんいえるようになってきた。すると、クラスに友だちもふえ、もう「かわいいそう」なんてどこからも聞こえてこなくなった。

明里

明里はかつちゃんのことを考えていた。勝也くんがおいしくないといった病院のごはんを、今食べている。きょうの夕ごはんは、和風ハンバーグとサラダとスープとごはん。デザートには、ウサギの形をしたリングもついている。明里の好きなメニューだ。

「きつと、この食器があんまりおいしくなさそうに見せてるんだわ」

もし高級レストランで使われるようなお皿で出てきたら、きつと勝也くんだっておいしく思うはずだ。

外に目をやると、黄色いテントに明かりがついていた。きょうも圭太くんはキャンプをするようだ。ということは、きょうの夜の見まわりは、看護師の高山さんということになる。

「明里ちゃん、じゃあきょうはこれで。またあしたね」

歩美^{あゆみ}さんはもう帰る時間のようだ。食後にのむいつもの薬を持って、あいさつに来てくれた。

「ねえ、歩美さん。ごはんの食器、もっとオシャレなのにかえてもらえない？ わたしはこれでもいいから、勝也くんのだけ、かえてほしいの」

「あら、どうして？ 勝也くんがそうだったの？」

「ううん。このごはん、おいしくないっていったから、お皿がすてきだったらおいしそうに見えるかなって」

歩美さんは口を開け、まばたきを何度もしながらかたまっていた。そして、笑い始めた。

「ああ、それはね、勝也くんはハンバーグとフライドポテトが大好物なだけけど、ここではそういうのは出ないでしょ？」

早く退院して食べに行きたいと、勝也くんはいついていたそう^④だ。それを聞いて、よけいにムカムカしてきた。明里は今まで、一度もハンバーガーを食べに行ったことがなかったのだ。

「ファストフードばかり食べていたら体に悪いから、できれば病院のごはんみたいなあつさりしたものも好きになってほしいんだけどねえ」

そう^④だ。それを勝也くん^④にいつてみよう。明里は夕ごはんをかきこんで、苦しい胸をおさえながら勝也くんの病室へ向かった。

四人部屋の勝也くんの大部屋は、にぎやかだった。どの子も勝也くと話したいらしく、すべてのカーテンが開いている。まるでパーティーでもするかのような雰囲気だ。

「あ、明里！来てくれたんだ！」

勝也くんは 2 よびすてしてくる。

「明里ちゃんだー」

ほかの子たちとも、もちろん明里は顔見知りだ。

「何の話してたの？」

「おいしいおかしランキングをみんなで決めてたんだ」

勝也くんはとくいげにロッカーの引き出しを開けた。

「明里はどれが一番好き？」

中にはたくさんのスナックがしがあつた。パッケージは見たことがあつても、食べたことないものばかりだった。でも、そんなこといえなかつた。

「ハンバーガーとかおかしとか、食べすぎたら体によくないんだよ」

「わかってるって。母ちゃんみたいなこというなよー」

「看護師さんの歩美さんもいってたもん」

イライラして、自分の息があらくなるのがわかつた。

「じゃあ明里は、ハンバーガーとかおかしを食べすぎたから病気になったの？」

もうがまんの限界だった。流れ出てきたなみだをぐっと目の奥におしとどめ、明里はいちもくさんに大部屋を飛び出した。

勝也くんは、いじわるな顔はしていなかつた。ただ、ほんとにそう思ったから聞いたのかもしれない。でも、明里にはゆるせなかつた。

「あら、明里ちゃん。どうしたの」

夜、高山さんが見まわりに来た。なんてこたえていいかわからないので、ふとんを頭の上までかぶった。

「泣いてるの？ 何かあったの？」

真つ赤になった目をふとんから出し、一部始終を話した。

「こんなにひどいこといわれたの、生まれて初めて」

「それは、つらかったわね」

⑥

高山さんはそういってだきしめてくれた。そのあたたかさに、

3

なみだが出てしまった。

どれくらいだっただろう。顔を上げると、高山さんは窓の外を見ていた。

きつときょうも圭太くんはテントに泊ま^とっている。お母さんにはないしょにしているといていたのを思い出したが、もうおそかった。視線の先には、明かりのともったテントがあった。

「えっと、あの、高山さん？」

「しようがないわね。きょうもあの子、あんなところでキャンプしてるわ。父親がいっしょだから前よりは安心だけど」

おこっているかと思つたのに、月明かりだけの薄暗い中、高山さんはほほえんでいた。

「明里ちゃん、生きていれば、いろんなことがあるわ。でもそれをこわがらないで、いろんなことをして、いろんな気持ちになつて、うんとすてきなおとなになるのよ」

明里のなみだは、いつの間にか止まっていた。

(嘉成晴香『流星キャンプ』〈あかね書房〉より)

問一

1

3

に入ることはとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

- ア、意外と イ、よけいに ウ、ふつう エ、相変わらず

問二

A

B

に入る体の一部を表すことばを、それぞれ漢字一字で答えなさい。

問三

~~~~線部X・Yの本文における意味として適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。  
X「気にさわる」

ア、返事に困る

イ、いじわるな

ウ、ふゆかいになる

エ、気持ちが悪くなる

Y「いちもくさんに」

ア、わきめもふらずに

イ、息を切らして

ウ、一生懸命に

エ、恥も外聞もなく

#### 問四

——線部①『「かわいいそう」という言葉が、圭太もきらいなのだ』とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、思いやりがあつてあたたかい言葉のようだが、結局は行動に移すことなく見ているだけであり、せつない気持ちにさせられたから。
- 2、相手のことを思つての発言だが、結局仲間うちで連帯感を強めるためのものでしかなく、助けてくれることはなかったから。
- 3、本来は弱い者に手を貸す時に使う言葉だが、実際は仲間はずれにすることを楽しむものであり、許せない気持ちになつたから。
- 4、本気で考えてくれているようであるが、実は何もしないでただ見ているだけのかれらの言葉に、一層みじめな気持ちにさせられたから。

#### 問五

——線部②「自分でもわかつていた」とあるが、それはなぜか。その理由を文中のことばを用いて、三十字以内で答えなさい。

#### 問六

——線部③「なみだが出そうになつたが、今度はトイレには行かなかつた」とあるが、このときの圭太のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、怒られてなみだが出そうだし、すぐにでも逃げたかつたがクラスメイトに絶対に弱みを見せたくなかつた。
- 2、うれしくてなみだが出そうになつたのであり、その場から逃げ出したなどという気持ちは起きなかつた。
- 3、勝也の気迫におされて今にも泣き出しそうだったが、そのやさしさにしつかり応えて強くなるうと思つた。
- 4、今まで自分のからにとじこもつていたことを深く反省し、これからは積極的に心を開いていこうと決心した。

問七

——線部④「よけいにムカムカしてきた」とあるが、このときの明里のようすとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、病院のあつさりしたご飯は体に良いため好きになってほしかったのに、栄養のかたよったファストフードの方が好きだと聞いて、いら立ちを隠せ<sup>かく</sup>ないでいる。
- 2、病院食が少しでもおいしくなるように協力しようとしているのに、そんな明里の思いも知らず、退院した後の楽しみを口にしていたと聞いて、さらに腹を立てている。
- 3、病院生活が長くハンバーガーなど食べたことがない自分があることを知りながら、周囲に大声でそのおいしさを話す無神経さに、はらわたがにえくり返っている。
- 4、病院では持ちこんだおかしを食べることが禁止されているのに、簡単にルールを破り他の子どもたちにもまで罪を着せようとしている様子を見て、怒り<sup>いか</sup>がこみあげている。

問八

——線部⑤「まるでパーティーでもするかのような雰囲気だ」とあるが、この表現と同じ比喩<sup>ひゆ</sup>表現が用いられている文を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、風がささやきかけている。
- 2、この図書館は知識の宝庫だ。
- 3、兄弟みたいに仲が良い。
- 4、電車はこれ以上ないほど混み合っていた。

問九 — 線部⑥「高山さんはそういっていただきしめてくれた」とあるが、このときの高山さんの気持ちとして適切なものを次の

中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、明里の心の中のつらさを想像し、少しでも寄りそって励まそうとする気持ち。
- 2、無神経な勝也を決して許してはならないと、明里と一緒に腹を立てる気持ち。
- 3、その場では明里の肩を持ちつつも、悪気なく声をかけた勝也に同情する気持ち。
- 4、勝也からの言葉で傷ついた明里に、もっと強くなってほしいと期待する気持ち。

問十 勝也の人物像として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、誰に対しても分けへだてなく親しみをこめて呼び捨てにし、自分の仲間に入れようとする思いやりのある人物。
- 2、一生懸命にリハビリをしている時でも笑いを誘うような言葉をかけ、場をなごませることができ人物。
- 3、どんな環境でもみんなの中心にいるようなリーダーシップを持ち、困っている人に手を差し伸べることができる人物。
- 4、思ったことをすぐに口に出して行動に移し、自分と違う意見を一切認めようとしないが、正義感の強い人物。

【三】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

単語の意味はどこまで？——ガバガイ問題

こうして1歳頃いっさいごころから子どもは単語を話し始めます。ただし、ここからすぐに、話すことのできる単語の数が爆発げつぱつ的な勢いで増えていくわけではありません。

①この足踏みの理由ですが、一つは、ここまでも見てきたように、この時期の子どもは指さしや視線の理解がまだ不安定で、相手が言った単語を結びつける先を探すのにまだまだ苦労しているから、ということがあるでしょう。

ただこの時期の子どもの単語の使い方を見ると、足踏みの理由はほかにもありそうです。まず子どもの単語の使い方は、大人から見ると、ヘンに限定されている場合があります。たとえば「家の窓から見た車にしか『ブーブ』と言わない」といった具合です。

同時に、単語が、あまりにもさまざまな対象に使われすぎる、ということも見られます。①単語の意味が広すぎるのです。たとえば、散歩の途中とちゅうで見かけたチワワのことを「ワンワン」と教えたら、チワワだけでなくすべての犬種、さらには、猫ねこや熊くまのぬいぐるみもすべて「ワンワン」になってしまったりします。

大人の方は、子どもにその対象を示して、「ブーブだね」とか、「ワンワンだよ」と教えれば、それでもうその単語の意味はわかってもらえるものと期待しています。ここで例に挙げた「ブーブ」や「ワンワン」の事例でも、子どもは、その単語をその対象と結びつけることには成功したようです。

しかし、その単語の使い方を見てみると、②、かいしやく解釈の仕方がグラグラと定まらない感じですが、どうしてこのようなことになってしまうのでしょうか。

この問題について考えるために、次のような状況じょうきょうを想像してみてください。あなたは言語学者で、今まで知られていなかった③を作ろうとしています。そのために、その言語を話す協力者と行動をとるに、彼かれが出した音声とその意

味を書き留めていきます。今その協力者が、草むらから飛び出してきた白いウサギを指さして「ガバガイ」と言いました。

ここで、あなたなら、このガバガイの意味として、どのようなことを書き留めるでしょうか。「ウサギのこと」でしょうか。それとも、「動物のこと」ですか。あるいは、「この村でみんなに可愛がられている、このウサギの名前（固有名詞）」とか？それとも「白くてふわふわしている」？

④ こうして考えてみると、何かを指さして単語を言うというだけでは、単語の意味を伝えるには十分でないことがよくわかります。意味の【A】は、このようにいくらでも出てきてしまうからです。どれが本当の意味なのかは、なかなか決められません。この問題を指摘したのは、アメリカの哲学者クワインです。【5】は、彼が示したこの例話にもとづいて、ガバガイ問題と呼ばれたりもします。単語を学び始めたばかりの子どもも、まさにこのガバガイ問題に直面していると考えられるのです。

家の窓から外を走っていく車が見えた。そのときに、「ブーブ」と話しかけられた。ブーブというのは、窓から見えた、あんなふうに走り去っていく車のこと？

散歩の途中で、毛むくじやらの、四本足で歩く生き物に出会った。お父さんは「ワンワン」と言っていたけれど、こういう感じの、毛むくじやらで、四本足の生き物は皆「ワンワン」なんだろうか？

このように、新しい単語に出会うたびに子どもは、それがどのような意味なのかについて【B】錯誤を繰り返しているのだとすれば、確かに、たくさんの単語を素早く覚えていくことなどできないはずだ。

### 単語の意味をめぐる「大人の常識」

⑥ 今度は、大人の側の問題について考えてみたいと思います。

たとえば、窓から見た車にしか子どもが「ブーブ」と言わないことについて、大人が少しヘンだと思うとすれば、それはなぜなのでしょう。【2】、「チワワを指さしてワンワン」と言っただけなのに、すべての動物がワンワンになってしまうのか。

【2】、「チワワを指さしてワンワン」と言っただけなのに、すべての動物がワンワンになってしまうのか。そういう単語の使い方は、大人の常識とは違

うからでしょうか。そうすると、その大人の常識とは、いったいどのようなものなのでしょう。

というわけで、ここで質問です。①の写真を見せられて、「これは？」と尋ねられたら何と答えますか。また、②の写真を見せられたときは？ あまり考え込まずにできるだけ素早く答えてください。



では答え合わせをしましょう。①リンゴ、②ヒツジ、でしたか？

「それ以外に何を答えるというのか、それしかないだろう」と思った方もいらっしゃるかもしれませんが。あるいは、「これは？」という曖昧な問いかけ自体に、戸惑われた方もいらっしゃるかもしれません。

それでも、ふだんの生活のなかで、私たちがこういうモノを目にして言うかはまったくの自由、ということを考えれば、この問いかけの曖昧さは、それこそふだんの私たちが置かれている状況そのものだと言えます。こういう曖昧な、何を答えてもいいとされる状況で言うとするれば、それはやはり「リンゴ」とか「ヒツジ」になるのではないのでしょうか。

ここで確かめたかったのは、**3**、リンゴの写真を見せながら「これは？」と尋ねられて、「マルイ」とか、「クダモノ」と答えることはあまりないのではないかと、ということでした。「ヘタ」と言うこともないでしょう。②の場合もやはり、真っ先に「フワフワシテイル」とか、「ドウブツ」、あるいは「メリノ」と答えたという人も、あまりいなそうです。

このように、何かモノを目の前にしたとき、私たちが口にしやすい単語は、実はある【C】のタイプに偏っています。それはつまりモノの名前です。「マルイ」とか「フワフワシテル」といった、その対象の性質でもなければ、「ヘタ」などの部分の名称でもなく、その対象全体を表すモノの名前です。

また、モノの名前はモノの名前でも、リングに対して「クダモノ」とか、羊に対して「ドウブツ」とか「メリノ」とは、あまり言いません。

- 1 また、見た目の類似性という点でも、「リング」は、フジもコウギョクもゴールデンリシャスもそっくりな形をしています。ですが、クダモノどうしとなると、そういうわけにはいきません。
- 2 「クダモノ」や「ドウブツ」は、上位カテゴリーの名前です。
- 3 その結果、「クダモノ」と呼ばれるモノの共通点は、「リング」と呼ばれるモノの共通点より少なくなります。
- 4 つまり、「クダモノ」には、リングだけでなく、バナナもぶどうもパイナップルも含まれます。

また「メリノ」は、「ヒツジ」の下位カテゴリーの名前です。羊のなかの特定の種類が、メリノなのです。ほかに羊には、チェビオットやサウスダウンといった種類もありますが、結局どれも羊だし、お互いによく似ています。特に種類にこだわる場面では、全部「ヒツジ」でいい、と考えるのは私だけではないと思います。

こうして見てくると、私たちがモノを見たときに、最初に口にする単語は、モノの名前に相違ありません。そしてさらに言うなら、モノの名前はモノの名前でも、上位カテゴリーの名前でもなければ、下位カテゴリーの名前でもない、その中間のレベルのカテゴリーの名前であることがわかります。

この中間レベルは「基本レベル」と呼ばれます。「ヒツジ」「ウマ」「キリン」は皆、この基本レベルのカテゴリー名です。同じ名前と呼ばれるモノどうし（たとえば、「ヒツジ」と呼ばれるモノどうし）は、互いに形がよく似ていて、一目でそれとわかります。同時に、「ヒツジ」対「ウマ」のように異なる名前で呼ばれるモノどうしの違いも一目でわかります。



このように「大人の常識」とは、モノを指し示して単語を言うときは、基本レベルのカテゴリ名を言う、ということだったのです。学習者の側にまわれば、誰かがモノを指して何か単語を言ってくれたら、その単語はそのモノの基本レベルのカテゴリ名だと考える、ということなのです。

だから大人には、チワワに対して教えられた「ワンワン」を動物一般いっぱんに使う、といったことが少しへんに感じられるのです。

4 子どもにしてみれば、そんな常識は知りません。それで、真正面からガバガイ問題に取り組み、いろいろ試あそしてみているだけなのです。

それにしても、一つ一つの単語で、こうやっていろいろ試していたのでは、話せる単語の数がなかなか増えていかないのも確かに仕方ないような気がします。

(針生悦子『赤ちゃんはことばをどう学ぶのか』(中公新書ラクレ)より)

カテゴリ：……同質、同類のものがすべてふくまれる部門・領域。

## 問一

1

4

に入ることばとして適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じものは使えない。)

ア、あるいは

イ、つまり

ウ、たとえば

エ、さらに

オ、しかし

問二 【A】～【C】に入る二字のことは次の漢字を組み合わせそれぞれ作りなさい。

間 候 定 補 特 行 考 試 思

問三 — 線部①「足踏みの理由」とあるが、それはなぜか。その理由を二つ、文中のことは用いてそれぞれ一文で答えなさい。

問四

② に入れることばとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、子どもの感性あり、大人の常識あり
- 2、感覚的なことばを用いてばかりで
- 3、狭<sup>せま</sup>すぎたり、広すぎたり
- 4、くり返しことばを多用するだけで

問五

③ に入れることばとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、言語の辞書
- 2、ガバガイの辞書
- 3、ガバガイの意味
- 4、言語の意味

## 問六

——線部④「何かを指さして単語を言うというだけでは、単語の意味を伝えるには十分でない」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、単語を学び始めたばかりの子どもの多くは、ガバガイ問題に直面して混乱こんらんしてしまうから。
- 2、単語の使い方は大変複雑であり、間違えれば意味がまるで異なったものになってしまうから。
- 3、単語の意味するものがたくさんあって、何を本当の意味としたら良いのか決められないから。
- 4、単語の本来の機能とは、ものの存在を前提としてその名前を表す役割を果たすことであるから。

## 問七

⑤ に入ることはとして適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、説明なしに単語を言われただけでは、その意味するところが分からない
- 2、単語を何度も叫さけんだだけでは、それが何を意味するか分からない
- 3、だまってモノを示しているだけでは、その単語の働きを理解できない
- 4、モノを示して単語が言われただけでは、その意味は定まらない

## 問八

——線部⑥「窓から見た車にしか子どもが『ブーブ』と言わないことについて、大人が少しヘンだと思う」とあるが、それはなぜか。その理由として適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、「大人の常識」とは、モノを指し示して単語を言われたら、できるだけわかりやすく答えるということだから。
- 2、「大人の常識」とは、モノを指し示して単語を言うときは、基本レベルのカテゴリー名を使うということだから。
- 3、「大人の常識」とは、モノを指し示して単語を言うときは、幼児語を使わないようにすることだから。
- 4、「大人の常識」とは、モノを指し示して単語を言われたら、相手によって呼びかたを変えらるということだから。

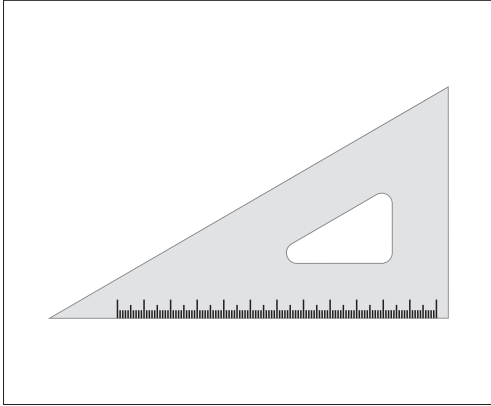
問九 — 線部⑦「ふだんの私たちが置かれている状況そのもの」とあるが、その状況を説明した文として適切なものを次の中

から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1、私たちがモノを目にしたとき、戸惑う人がいようが何を言っても決して間違いはならないという状況。
- 2、私たちがモノを目にしたとき、どのような場合でも他者と共通の意味のことばのみを正解とするという状況。
- 3、私たちがモノを目にしたとき、必ず相手が知っていることばを用いて語る必要があるという状況。
- 4、私たちがモノを目にしたとき、カテゴリ内であれば何と云うかはその人自身にまかされているという状況。

問十 ……線で囲まれた部分の1～4を正しい順序に並べかえ、番号で答えなさい。

問十一 ……線部「上位カテゴリ」「下位カテゴリ」「中間のレベルのカテゴリ」とあるが、次の絵について、それぞれのカテゴリにおける名前を、文中の例にもとづき「上位」「中間」「下位」の順番で答えなさい。



国語 解答用紙

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |
| 氏名   |
|      |

|    |
|----|
| 得点 |
|    |

|    |   |   |
|----|---|---|
| 問一 | ⑤ | ① |
|    |   |   |
|    | ⑥ | ② |
|    |   |   |
|    |   | ③ |
|    |   |   |
|    |   | ④ |
|    |   |   |

問二

問三

問四

理 論

問五

|    |   |
|----|---|
| 問一 | 1 |
|    |   |
|    | 2 |
|    |   |
|    | 3 |
|    |   |
|    | 4 |
|    |   |

問二

A

B

問三

X

Y

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

|    |   |
|----|---|
| 問一 | 1 |
|    |   |
|    | 2 |
|    |   |
|    | 3 |
|    |   |
|    | 4 |
|    |   |

問二

A

B

C

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

↓

↓

↓

問十一

上位カテゴリー

中間のレベルのカテゴリー

下位カテゴリー